

天満上基盤整備地区人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
四国中央市	天満上基盤整備地区(大西山田集落、寺の下集落)	令和5年2月21日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	30.8ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	17.6ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	11.4ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.8ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	8.4ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

高齢化が進んできた天満上地区(基盤整備地区)では、早急な担い手対策の必要性は感じていないものの、将来的には耕作できなくなる農地の受け皿となる担い手の育成やそれに伴う農業機械等の整備支援が必要である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

農地の情報共有ができる組織立ち上げの協議を進める。
(農地の担い手、荒廃農地の管理、農地の賃借相談ができる組織)

若い担い手への優先的な集積

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。